

開催地名	東京都八王子市
開催日時	令和8年2月14日(土) 9:30 ~ 12:00
開催場所	八王子市役所
語り部	武蔵野 美和 (岩手県陸前高田市)
参加者	自主防災組織の方・町会役員の方など約140~150名
開催経緯	災害は、いつ発生するかわからない。過去の災害から学ぶとともに自分たちの地域でどう活かせるのか、リーダー養成研修として学んだことを地域に持ち帰って自主防災に活用してほしい。
内容	<p>地域を知っているリーダーだからこそできること</p> <p>—東日本大震災の体験・教訓—</p> <p>(1) 自分のこと</p> <p>平成23年3月11日当時、陸前高田で5人の子どもを育てながら、一番下の5人目の子どもの通う陸前高田の高台にある中学校でPTA会長をつとめていた。高台に住んでいたため、津波は見たが被害はなかった。しかし、町を作った多くの方が亡くなり、なぜ自分だけが生き残ったのかと落ち込んだ。PTA会長をしていたが、うまくいかなかった自分の後悔や失敗を話すことで皆が回避できるのではと思い、各地で語り部としてお話をしている。</p> <p>(2) 壊滅したまち陸前高田</p> <p>人口24,246人 犠牲者1,757人(行方不明者含む)。津波による浸水面積は市の総面積の6%にもかかわらず被害が大きかったのには、平野部に主要な建物が多く半分を占めていたからではないか。学校にいた多くの子どもたちは助かり、平野部の建物で働いていた親を亡くす孤児や遺児も多かった。陸前高田の高田松原は約7万本あった松が、たった1本を残して津波に飲み込まれた。そのたった一本も朽ちてしまい枯れた。後世に語り継ぐためレプリカとして再生され元の場所に設置されている。</p> <p>高田松原から5キロ離れた場所でも川をさかのぼった津波が大きな被害をもたらした。海辺のまちでは市役所、体育館、文化会館、県立病院などの主要な建物が津波により全壊し多くの犠牲者を出している。その中でも5階部分のベランダパネル以外すべてなくなった5階建ての団地、今も残るタピック45という建物の先端に登って助かったなど犠牲者を生まなかった建物を震災遺構として残している。</p> <p>(3) 災害って何だろう？</p>

地震そのものでは人は死なない。事象そのものが人の生活する社会に影響を与えて災害が起こる。人の命、あるいは持っている物や場所に影響を及ぼしたらそれが災害。それが失われたらそれが災害。大切なものは人それぞれで、大切なものをなくすことは、笑顔でいられなくなる。

地震は防ぐことができない。災害を防げるものと防げないものがある。防げるものは防ぎたい。何を大切にしているのかを日ごろから考えるべきこと。話し合っておくことが大事と考える。

(4) 多様性に配慮ってどうすること？

どんなに社会性のある人でも、震災がその人の通常もっている意識そのものを飛ばしてしまうこともある。尋常ではない状態になってしまう。それが災害における怖さ。だから日ごろから多様性を考えておかなければならない。普段信頼されている栄養士が震災に直面し「あるものでアレルギーにどうしろっていうの」とパニックになってしまう

目に見える困りごとばかりではない。人の声に耳を傾けること、参加できない人の声を線引きすることなく聴くことが、地域にできる共助の在り方で、その話し合いそのものが事前復興である。生き様や自分の思いが伝えられる、町の良さを皆で共有すること、避難所運営よりもまず事前復興の話し合いの場を持ってほしいと考える。

(5) いつもの備えもしもの安心

いつもの備えがあるからもしものが安心の考え方。『いつも』と『もしも』がフェイズフリー(同じフェーズ)。災害用のものとして持ち歩くよりも、必要なものは使いながら備えると、いざというときに目的に見合った使い方ができる。日ごろ身に着けておく0次グッズ=持ち歩きグッズ。今持てるだけの荷物をもって命を守り、安全なところまで逃げるという考え方が大事。私が私らしくいられるためには、日ごろから考えておく必要がある。パラコードを身につけて持っている、いざという時に役に立つ。目的に見合ったものを考えてもつことが大事と考える。

(6) 明日は必ずやってくる

当たり前をやってくると思っていた明日。あの日が最後になるとは思わなかったからこそ後悔した。後悔しないように言葉を伝え続けることが大事。当たり前の日常とと思っている中でも、あることが難しい当たり前の反対の言葉が「ありがとう」。それを伝えていただきたい。挨拶は想いを伝えるだけでなく、私たちが日ごろからできる防災活動に他ならない。挨拶は、安否確認

でもある。私たちができることをつないでほしい。それができることによって、地域がますます事前復興のその先へ発展を遂げていくと信じている。



開催地より

大変参考になるお話を聞かせていただいた。本日学んだことを防災組織のメンバーとして、ぜひ今後の防災活動に活かしていきたい。